

2 曲線の媒介変数表示

単位円 $C: x^2 + y^2 = 1$ 上の点 $P(x, y)$ は,

$$\begin{cases} x = \cos t \\ y = \sin t \end{cases} \quad (0 \leq t < 2\pi) \quad \dots (*)$$

と表される.

逆に, (*) を満たす x, y を座標にもつ点 $P(x, y)$ は, t を $0 \leq t < 2\pi$ の範囲で変化させれば単位円 C 上をくまなく動く. つまり, P の軌跡が単位円 C となる. その意味で, (*) は単位円 C を表していると言える.

一般に, 曲線 C 上の点 P の x 座標, y 座標を変数 t の関数で表し, t が変化するときの P の軌跡として曲線 C を表現することを, 曲線 C の媒介変数表示といい, t を媒介変数という.

3 媒介変数表示の微分

曲線 $C: \begin{cases} x = f(t) \\ y = g(t) \end{cases}$ に対して, ベクトル $\vec{v} = (f'(\alpha), g'(\alpha))$ を考える.

$$f'(\alpha) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(\alpha+h) - f(\alpha)}{h}, \quad g'(\alpha) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{g(\alpha+h) - g(\alpha)}{h}$$

であるから, まず,

$$\vec{w} = \left(\frac{f(\alpha+h) - f(\alpha)}{h}, \frac{g(\alpha+h) - g(\alpha)}{h} \right)$$

を考えると,

$$\vec{w} = \frac{1}{h} (f(\alpha+h) - f(\alpha), g(\alpha+h) - g(\alpha))$$

よって, C 上の点で $t = \alpha$ に対応する点を P , $t = \alpha + h$ に対応する点を Q とすると,

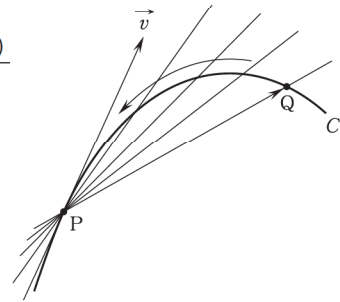
$$P(f(\alpha), g(\alpha)), \quad Q(f(\alpha+h), g(\alpha+h)), \quad \vec{w} = \frac{1}{h} (\vec{OQ} - \vec{OP}) = \frac{1}{h} \vec{PQ}$$

したがって, $\vec{w} \neq \vec{0}$ のとき, \vec{w} は直線 PQ に平行なベクトルである.

ここで, $h \rightarrow 0$ とすると, Q は P に限りなく近づき, 直線 PQ は P における接線に限りなく近づく.

したがって, $\vec{v} \neq \vec{0}$ のとき, \vec{v} は P における曲線 C の接線に平行である.

また, このことから, $f'(\alpha) \neq 0$ のとき, P における曲線 C の接線の傾きは $\frac{g'(\alpha)}{f'(\alpha)}$ となることわかる. したがって,



6・3 媒介変数 θ によって,

$$\begin{cases} x = 2 \cos \theta - \cos 2\theta \\ y = 2 \sin \theta - \sin 2\theta \end{cases} \quad (-\pi \leq \theta \leq \pi)$$

と表される曲線を C とする. C の概形を xy 平面上に図示せよ. また, $\theta = \frac{5}{6}\pi$ に対応する点における接線の方程式を求めよ.

6・4 曲線 $y = \sin x$ ($0 < x < \pi$) 上に点 $P(t, \sin t)$ をとる. 原点を O , P から y 軸に下ろした垂線の足を H とし, 三角形 OPH を y 軸のまわりに 1 回転して得られる円錐の体積を $V(t)$ とする.

(1) t の関数として, $V(t)$ ($0 < t < \pi$) を求めよ.

(2) $V(t)$ はある 1 点 $t = t_0$ で最大値をとることを示せ. また, $\frac{2}{3}\pi < t_0 < \frac{3}{4}\pi$ を示せ.

(3) $V(t_0) = -\frac{\pi}{6}t_0^3 \cos t_0$ を示せ. また, $V(t_0) < \frac{9\sqrt{2}}{256}\pi^4$ を示せ.